

平成25年教育委員会第10回定例会会議録

開会日時 平成25年10月11日 午前 10時00分

閉会日時 同 上 午前 10時55分

場 所 教育委員会室

出席委員 委員長 松 本 實
同職務代理 杉 浦 容 子
委 員 塚 本 亨
委 員 面 田 博 子
委 員 竹 高 京 子
教育長 塩 澤 雄 一

議場出席委員

・教育次長	濱中 輝	・学校教育担当部長	平沢 安正
・庶務課長	田口 浩信	・教育計画推進担当課長	若林 繁
・施設課長	伊藤日出夫	・学務課長	石合 一成
・指導室長	岡部 良美	・統括指導主事	志村 昌孝
・統括指導主事	光山 真人	・地域教育課長	小曾根 豊
・生涯学習課長	今井 英敬	・生涯スポーツ課長	竹嶋 和也
・中央図書館長	橋本 幸夫		

書 記

・企画係長 菊池 嘉昭

開会宣言 委員長 松 本 實 午前 10時00分 開会を宣する。

署名委員 委員 松 本 實 委員 杉 浦 容 子 委員 塩 澤 雄 一
以上の委員3名を指定する。

議事日程 別紙のとおり

○委員長 おはようございます。

ただいまから、平成25年教育委員会第10回定例会を開会いたします。

議事日程に入る前に、佐藤委員が10月1日をもって任期満了となったことに伴いまして、10月2日付で塚本亨委員が任命されましたので、ご紹介いたします。

○塚本委員 おはようございます。ただいま委員長からご指名いただきました、10月2日付をもって新教育委員を拝命しました塚本亨と申します。まだまだ、これからスタート、端緒についてでございますけれども、教育長、また教育委員長以下4名の教育委員の先輩諸氏のご指導のもとに、1日も早く同じ目線で動けるように粉骨砕身で努力してまいります。また、事務局の方々にもご協力とご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

委員の方々、どうぞよろしくお願い申し上げます。

○委員長 よろしく申し上げます。

本日の会議録の署名は、私に加え、杉浦委員と塩澤教育長にお願いいたしたいと存じます。

それでは、議事に入ります。

本日は、議案等はございませんので、報告事項等に入ります。

報告事項等1「平成24年度葛飾区各会計歳入歳出決算の審査について」、ご報告をお願いいたします。

庶務課長。

○庶務課長 それでは、「平成24年度葛飾区各会計歳入歳出決算の審査について」、ご説明申し上げます。

本件は、9月に行われました区議会決算審査特別委員会第4分科会の教育費に係る審査において各会派から出されたご意見等をご説明いたします。裏面をごらんください。

まず、葛飾区議会公明党の意見でございます。

教育費については、新教育振興基本計画を実効性の伴う事業として推進し、着実な学力の向上に結びつけるよう強く望むとともに、その成果を区民に公表して頂きたい。小中一貫教育実施校の実績と課題を検証し、次期開校予定校への良きモデルケースとするよう期待します。教員の指導力アップのための教職員研修の取り組みは評価すると共に更なる拡大が必要です。不登校対策やいじめ対策ではスクールカウンセラー、ソーシャルワーカー派遣事業のさらなる改善を求めます。

以下、記載のとおりでございます。

続いて、自由民主党議員団の意見でございます。

教育費については概ね適正に執行されていると評価します。学力の向上については、家庭学習も重要であるとの視点を重視することを求めます。児童・生徒の学力向上には東京都との連

携強化、若手教員の授業力・指導力の向上、他区との比較による葛飾独自の学校づくりなどが必要と考えます。そのために、教育費のうち教育総務費の教育指導費を更に拡充することを求めます。区内各小学校の建替えについては、計画から着手までをできる限り短縮して、速やかな改築が進むことを求めます。

以下、記載のとおりでございます。

日本共産党葛飾区議会議員団の意見でございます。

学校選択制は、児童の安全面でも学校間格差をつくり出すという点でも見直すべきである。「確かな学力の定着度調査」の公表・序列化はやめること。決算額6万900円のPTA退任会長・副会長への感謝状に、他の本部役員分を加えるべきである。全校舎の建替えを計画化するとともに、地域住民の避難所として利用できるよう非構造部材対策を早期に行うこと。

以下、記載のとおりでございます。

民主党葛飾の意見でございます。

教育総務費の小中一貫教育推進経費は、一貫校だけに効果を止めるのではなく、小中連携として波及できるよう、効果の分析・検証を一層丁寧に行うよう望む。スクールソーシャルワーカー派遣事業経費は、不登校などに対して、チームとして対応するシステム構築を評価する。教員の学級経営能力の向上とともに、不登校対策をより一層きめ細かく対応するよう求める。教育情報化推進経費では、子どもと向き合う時間を創出するため、より便利で使いやすく、双方向性を活用してさらなるシステム向上を望む。

以下、記載のとおりでございます。

地域政党葛飾のご意見でございます。

教育費では、スクールソーシャルワーカーについて福祉的要素と教育的要素を必要とする横断的な取り組みが求められる中で、担当職員の努力による導入と、様々なケース対応による実績を得たことを高く評価する。表面化されにくいケースの問題解決のため今後とも増員を含め、専門の大学等と連携し課題終結へと挑まれない。職員研修費では、危機管理の視点から3.11の多数の事例、教訓を踏まえ、非常に厳しい訓練を私立保育園、公立保育園などが導入している。学校、幼稚園においても、子どもたちを災害や犯罪から命を守るための「災害時図上訓練」のような実践的な研修の導入を強く求める。

以下、記載のとおりでございます。

無所属議員の意見でございます。

教育費については、ICTの中で国からの補助金で雇用対策として支援員を採用してパソコンについての授業等をしているが、新年度以降も区として財源を確保してもらいたい。保田しおさい学校の教育一環の中で、肥満・ぜん息等の早期回復には校庭の拡張を要望します。学校

避難所運営にも影響する学校開放員の人数が激減しているため、1日も早く対応を望む。小中一貫校の中で高砂けやき学園については細田小の児童に対して、きめ細やかな指導を期待します。

以下、記載のとおりでございます。

説明は以上でございます。

○委員長 ただいまの説明についてご質問、ご意見ありますか。よろしいですか。

(発言する者なし)

○委員長 よろしいですね。

それでは、報告事項等2「平成25年度上半期の教員の研修報告について」、ご報告をお願いいたします。

指導室長。

○指導室長 それでは、私から平成25年度上半期の教員の研修報告をさせていただきます。資料をごらんいただきます。

まず最初は、実技研修についてでございます。書写実技研修会から始まりまして、六つの研修会、全27回を実施しておりますところでございます。534人の受講がございました。特に3番目の理科実技研修会におきましては、今年度、東京理科大学の中に区の施設としてつくっております「未来わくわく館」の施設を活用いたしまして新しい実験の実習を行っております。さらには、体育実技研修会では、小学校教諭を中心に、今年度から始まります小学校陸上競技大会に向けた競技の細かいルールや確認、さらには選手の立ち位置、計測の仕方等についても研修をしておりますところでございます。さらには、小学校の新規採用教員につきましては、採用試験の中に水泳の実技の試験がございませんので、水泳指導について全員に研修を義務づけて行っているところでございます。

おめくりいただきまして、教育課題研修でございます。ここでは小学校英語活動研修を実施いたしました。今年度は64人の受講がございました。特に今年度は、小学校から中学校への円滑な連携を狙いまして、新たにこの研修に中学校の教員も参加できるようにしたところがございます。中学校からは19人の教員が参加しておりますところでございます。

次に、教育相談研修でございます。こちらにつきましても、初級研修会から始まりまして、夏季集中の講座も含めまして五つの研修会で287人の受講者がございました。特に今年度は教育相談を学校内で組織的に対応するために、その研修会の一部をスクールカウンセラーが受講できるようにしたところがございます。今年度は3人のスクールカウンセラーが受講しております。

続きまして、次のページをごらんください。コンピュータ実技研修会でございます。こちら

につきましては、ワープロソフトの応用から始まりまして、10の研修で全31回の研修を実施したところでございます。191人の受講者がございました。特にコンピュータ実技研修会では、本田小学校を会場に、同時に複数の電子黒板を利用したり、児童用のタブレットPCを利用して、フューチャースクールの体験をしたり、先進的活用を研修者が疑似体験をすることができました。さらに、今年度からモデル実施をしております各教室に1台配置する実物投影機の研修につきましては、東柴又小学校と渋江小学校を会場にいたしまして、会場校の教員から、1学期の授業で実際に実践した内容についてそれぞれ示していただくとともに、それについて感想、さらには提案をしていただいたところでございます。

全体といたしましては、94回研修会が行われておりまして1,076人の受講者がございました。

私のほうからは以上でございます。

○委員長 ご質問等ございますか。

面田委員。

○面田委員 報告ありがとうございました。研修実施94回で1,076人、これは1回にするとちょっと少ないのかなと思いつつ、でも頑張っている姿が見えてよかったです。

特によかったなと思いましたが、夏季休業を非常によく活用しているのが目に見えてわかりました。特にコンピュータの実技研などは全部夏休みですね。それから、1に書いてある実技研修でも、夏休みにやっているのも多くあるので、そのようにして時間を有効に使えた研修があったということで、それはよかったと私は思いました。

でも、見てみますと、私が現場にいたころやっていた研修がまだ続いているということで、それは果たしていいことなのか、自分も今言いながらちょっと疑問に思うのです。何度もこの委員会の中で話題になりました。子どもたちにわかる授業をさせたい、そのためには教師の指導力アップが大事だという話が何度か出ていますし、そのための施策を教育委員会でもやっているわけです。そういう点から考えると、実際の授業の中で有効に発揮できる力をつけている研修会ばかりではないような気がするのです。ぜひ、実際に先生方の授業力アップにつながるような研修が増えてもらいたいと思います。

もう一つは教育相談のことです。これも前からありまして、私も何度か参加させていただいて、勉強させてもらいました。ロールプレイやグループエンカウンターなどを実際にやって、私も教室でそれをやったことがありまして、使えたなという思いもあります。

それと同時に、本当に子どもに寄り添うとはどういうことなのかというのを専門の先生から聞くことがあって、実際の授業力というのとはちょっと違うけれども、教師としては必要な資質だと思いますので、いいなと思っておりますし、続けていただきたいと思いました。ただ、

人数が少ないなという思いです。

教育相談の中で特にいいなと思ってここで今見ましたのが、7月の夏休みにありました発達障害の子への対応。これは今とても大事なことです。それにしてもこれも人数が139人で、もっとたくさんの方に聞いてもらいたかったなという思いがありました。

今、教育振興基本計画も策定されていますし、その中の大きな柱が授業力アップですから、ぜひそれに沿ったような研修であっていただきたいという思いです。そのあたり、指導室のお考えを聞かせていただければと思います。

○委員長 指導室長。

○指導室長 この教員研修につきましては、毎年やった後に、参加者の面から、そして内容面から工夫改善を加えることがやはり必要であると思っております。以前からずっとやっていて、教員の資質の向上にとっては継続をしていかなければいけない研修が教育相談研修等であると思っております。しかしながら、授業力の向上、特に子どもたちが楽しいとか、わかるとか、できた喜びを感じさせる授業に持っていくには、例えばICTを活用した教員の研修など、これからもっといろいろな授業方法について研修内容を改善していく必要があると思っております。特に今回、実物投影機の研修も取り入れておりますけれども、今後、こちらの実物投影機を各教室で使えるような学校数も増やしていくという予定もございますので、その一つに限らず、来年度の研修につきましては、新しい教育振興基本計画も踏まえながらしっかり計画を立てていきたいと考えております。

○委員長 ほかにございますか。

杉浦委員。

○杉浦委員 細かい内容になりますが、教えてください。

まず初めに受講者の件ですが、受講者の選定方法は、どのようにされるのですか。葛飾区に赴任してから何年間で何回研修を受講するとか、何か規定があるのですか。

次に研修についてですが、夏季休業の期間を使って研修を行うことは、画期的だと思いますが、教育相談の研修等は月曜日が多いように見受けられます。大切な研修だとは思いますが、このような研修日程を計画されて、受講される先生の授業時間にはどなたが授業を受け持つのですか。それとも、この計画の日程に重なった時には、授業を振り替えると決めているのか、受講する時に何か工夫されているのですか。子どもとふれ合う時間が少ないと言われている意見もあります。

また、研修内容ですが、時代はスピーディーに変化しています。時に応じた内容を取り入れた研修にしているのでしょうか。前年度に出てきた問題点や検討課題等も新たに取り入れた内容にしているのかどうか。子ども、保護者、地域、情報、それぞれの環境は、私たちの子育て

の時代とは大きく変化しています。先生方もご苦労されていらっしゃると思います。

最後に研修の講師の先生、実技の先生ですが、どのような立場の先生が選ばれるのでしょうか。教育相談研修には、どのような選定で先生をお願いするのですか。

以上何点かになりましたが教えていただきたいと思います。

○委員長 指導室長。

○指導室長 まず、いくつかご質問をいただきましたので、お答えをさせていただきます。

推薦方法につきましては、まず、この研修の受講については、校長と各教員が年度初めに、今年度の自分の取組等について自己申告という形で面接を行います。4月から5月にかけて当初面接という形でいたしますけれども、そのときに、現在の教員の能力、そして校長がその教員を今後どのような方向に育てていきたいかということも踏まえて面接を行ってまいります。その中で、今お話ししておりますのは、教育委員会、区で行っている研修ではございますけれども、東京都で行っている研修とか、そういう研修全てを踏まえながら、こういう研修を受けてはどうか、さらにはこういう研修を本人が受けたいということで、当然そこで校長と相談いたします。その上で、校長の意図、そして教員の思いもございますので、その中で自分が進めていく研修を行い、校長が推薦するということが一つの流れとなっております。

2点目に、何年後にこれだけは受けなければいけないという受講の規定のお話がありました。例えば若手の実力養成研修は、簡単に申し上げますと、初任後1年目、2年目、3年目の教員については法定として、必ず研修を受けることが定められております。そして、教員になりまして10年を経験いたしました11年目の教員についても、10年経験者研修という形で、法で定められた必ずやらなければいけない研修もございます。しかしながら、今お話にございましたように、全ての教員について何年に一度研修を必ず受けるべしというようなことについては強い縛りはございません。その意味でいきますと、教員の自主性ということになってしまいますが、一番最初に申し上げましたとおり、校長との面談において、校長もその教員を計画的に育成していくという視点から、校長のほうから教員に研修を勧め、そして受講させるという形をとっているところでございます。

3点目に、授業日と研修が重なったときの対応でございます。こちらにつきましては、研修の日がわかっているところについては、校内の中で、例えば中学校であっても、その日に他の教科と授業を振り替えるというような形で、子どもたちの授業の進行の妨げにならないように、例えば自習だけにならないような配慮は各学校とっております。ただ、やむを得ずどうしても振り替えができないような場合には、その研修に出る教員のほうであらかじめ子どもに課題をつくっておきまして、別の教員がその教室につくという形で研修日の対応をとっているところでございます。

4点目は研修の改善についてでございます。不易のものもございますし、当然、時代に応じて変えていかなければいけないということは私自身も考えております。ことし起きた課題が来年度の研修に100%生きているかと申しますと、なかなかそこまでいっていないという現状はございますけれども、私たちが指導主事と話すのは、先生方の実態を捉えること、そして先生方のどういうニーズがあるのかということ踏まえて研修内容については検討を加えていくという方針で進めていくところでございます。

最後に、講師の選定についてございました。講師の選定につきましては、それぞれ実技研修会の担当者が、例えば口コミの情報もございますし、大学等の情報、さらにはインターネット等の情報等も踏まえまして、研修内容によりよい講師を選定しております。その意味で、大学の教授、学識経験者の方から、今までの教員経験の中ですぐれた実践をされた方をお呼びしているというような内容もございます。場合によっては、教員関係ではなくて、例えば医師の方とか、他の関係機関との連携の意味から、警察の方においでいただくとか、研修の内容に沿った、より実践的で具体的なお話をしていただけるような方をそういう形で呼んでおります。そういう意味で、2年、3年、毎年続いて講師をお願いする方も時々ございますけれども、できるだけ新しい実践的なセンスを持った方をということで講師を選定しているところでございます。

以上でございます。

○委員長 杉浦委員。

○杉浦委員 受講者の選定につきましては、自己申告もあるけれども、多くは校長の推薦という説明でございました。例えば、推薦に沿って受講を希望する教員もいる一方、中には受講してほしいと思うけれどもなかなか受講希望されない教員もおおいになると思います。情報社会の時代変化の中で育っている子どもたちへの対応は、経験豊かな先生方であっても大変ご苦勞なことと思います。どうか新しい感覚で挑戦して頂きたいと思います。

先ほどの授業時間時の教育相談研修ですが、34人、18人、14人とありますが、学校によって集中しているのかわかりませんが、押し並べて各学校1人。日程をきちんと計画すれば、音楽等専科の先生に振替授業をして頂くとか、受講される先生も準備が必要だとは思いますが、できれば夏季休業日とか、授業時間外の夜間にできないでしょうか。

それから、今まで素晴らしい講師の先生をいろいろお呼びしたのだと思いますがけれども、これからは、社会人であるとか、一般の事業経営者の方にもお願いしたい。子どもに楽しい授業をできるような職業の方たちにも。今の子どもたちがどこで心から喜んでくれるのかといったことは、やはりそういう専門の方たちに講師になって研修をしていただくのもいいのではないかと考えています。

コンピュータの実務研修も、先ほど面田委員もおっしゃっておいりましたけれども、本当にすばらしいものがあるということはよく理解できます。

ここまで私の意見を述べさせていただきましたが、その点、これからの課題としてご検討して、室長さんの決意とか、これからの研修をどのようにしていくのかということ、先ほども、新しいものを検討していくというお答えがありましたけれども、その辺、再度お話をいただきたいと思います。

○委員長 指導室長。

○指導室長 今お話がございました点の中で研修時間のお話がございました。私たちもこの授業日の研修を行う際には、できるだけ授業に支障がないように、例えば午後3時から開始とか、そのような形をとっております。さらには、勤務時間等がございますので、こちらで行います研修については、夜間の研修を入れるには無理がございます。夜間の研修につきましては、雑誌とか講座を見まして自主的に行っている教員もございます。そういう意味で、日々の授業にできるだけ支障がないような研修時間を組むことは私たちの役目だと思っておりますので、今後も続けてまいりたいと思います。

夏季休業日等におきましてどのように時間的にうまく活用しながら研修を進めていくかについては、これからしっかりと検討してまいりたいと思っております。

受講させたいけれどもなかなかしない教員もいることは事実でございますけれども、そのような教員に、先生にこういう力をもっとつけてほしい、先生はここはいいけれども、こういう力をつければもっといい授業ができると、校長がしっかりと計画、ビジョンを持って指導を入れていくことも重要だと思います。まだ今年度も研修がございますし、来年度の研修の進め方につきましては、私たちもそのあたりは校長会でもしっかりと連携を図って強力に進めていきたいと考えております。

○委員長 杉浦委員。

○杉浦委員 最後に1点お聞きします。

外部研修の件です。各自治体で行っているもの、国等が公的に行っている研修、民間で行っている研修等ありますが、外部研修受講の場合、研修費の一部補助金は出るのでしょうか。例えば申告をして、指導室で認められた研修についてはどうなのでしょう。

○委員長 指導室長。

○指導室長 例えば国とか都の研修につきましては、これは勤務時間の中で参りますので、それは当然無料で実施しております。ただ、教員個々が自主的に持ってきた研修について、今、補助金というような制度は行っておりません。ただ、承認研修という形がとれるものについてはとっておりますけれども、基本的には外部でのいろいろな研修がございますので、それにつ

いて指導室として教員一人ひとりに補助金を出すようなことは現在は進めていない状況です。

○委員長 塚本委員。

○塚本委員 1点お尋ねしたいことと要望です。

コンピュータの実技研修、先ほど面田委員から、また杉浦委員からございました。受講者総数が191人とございますけれども、特に受講者数の少ないプレゼンテーションソフトのところとホームページの作成という部分で、これを受講された教員の方が各項目で共通しているのか、まるっきり違う教員の方が受講されているのか、ちょっとお教え願いたい。時代に即応したもののなのでその1点。

あとは、要望なのですが、教育相談研修の中、特にグループエンカウンター、ロールプレイは今の時代の趨勢としては非常に大事な部分だと思います。特に外来講師は、予算的、経済的なものもあろうかと思うのですが、時代の趨勢で、いろいろな部分でも各分野でそれなりに大切だと思います。私もつい先だって、午前・午後の4時間程の講演を聞く機会があったのですが、そういった部分での、経済的な事情と勤務時間内という部分の拘束は今ご答弁いただきましたので、要望になりますけれども、ぜひ現場の教育をなさっている先生方、特に年次の中で例えば新任されて2年、3年、あるいは10年、11年目というお話がございましたけれども、先ほど各委員から出ましたように、時代の趨勢はどんどんさま変わりしてまいりますし、保護者のおかれた環境も考慮した、いい講師がいらっしゃったら、ぜひ今後の課題としてお願いしたい。これは要望でございます。

○委員長 指導室長。

○指導室長 先ほどコンピュータ実技研修会のお話がございました。ここに参加されている方は、お1人で二つの項目に参加されている方もいらっしゃれば、それぞれ別の方が出ているという状況もございます。例えば7月29日はプレゼンテーションソフト、8月5日はホームページの作成の研修がございましたけれども、ここににつきましては、小学校でいいますと、岩井臨海学校があったり、夏季休業中、講座を用意するのですが、子どもの活動に対して教員が引率するとか、部活動の指導等があったり、そのあたりが十分ではないというところもございます。その意味では、研修の内容もさることながら、研修日程について私たちも工夫する必要があると考えております。

いただきましたご要望も踏まえながら、また、来年の研修の充実にしっかりと取り組んでまいりたいと考えております。

○塚本委員 ありがとうございます。

○委員長 竹高委員。

○竹高委員 ご報告ありがとうございます。この研修というのは、多分、続けてきて、絶対に

必要なものの中にはあると思いますし、普通に見させていただいて、ご自分で努力して伸ばしていったほうがいいのではないかと考えられる実技研修というのも、普通の実技研修、コンピュータ実技研修の中にも見受けられます。私もコンピュータのほうなどは独学で全部学んでいたものですので、このコンピュータ実技研修が果たして小学校、中学校の授業の中でどれだけ役立っているのかというところには、厳しい言い方をしますと、ちょっと疑問を感じる部分があります。

この部分で一生懸命研修に出てこられるのであれば、子どもたちに対してのコミュニケーション能力をもっと高めるような講習・研修であるとか、保護者対応が年々難しくなっている時代になっていますので、そういう能力を少しでもサポートできるような、前向きに考えていけるような研修を初任者の方と中堅クラスの方にぜひ学んでいただけたらいいのではないかといいのは見受けられます。

保護者の視点から申しまして、保護者の気持ちをわかってくださる先生に寄り添う方というのはやはり多いし、信頼を置ける先生に子どもも保護者もついていくのだと思います。そういう点を初任者の先生、若手、10年たっていない先生方は、知る機会というのもなかなか難しかったりするので、研修会の講師の方も、保護者であり、お医者様であったりという方をできれば見つけていただいて、楽しい授業、わかりやすい授業をなさるためには、先生方も楽しい研修と楽しい講習を受けるべきではないかと感じます。前向きにもっと勉強したいと思えるような方を、今の時点でもご努力なさっているとは思うのですけれども、ぜひ事務局の方に頑張っていたいただきたいと思います。よろしく願いいたします。

○委員長 ほかにございますか。

指導室長。

○指導室長 今、保護者の方、地域の方の要望というのは非常に多くなっております。それを受けとめるだけではなくて、また、その受けとめ方によってはさらに大きく広がってしまうというようなこともございます。そういう意味で、今まではいわゆる学校に対する要望等に対して管理職対象の研修というのはある程度やってきたところでございます。初任者・中堅の部分では、初任者研修の中でそういう保護者のお話をどう受け取るかというのはしておるところでございますけれども、中堅の教員等については改めてする必要があるのかなと思っています。

そういう意味で、管理職対象、さらには中堅教員対象についても、今後、今の学校が保護者、地域の方と連携する上では、例えばコミュニケーション能力の中でも、こういう地域の方や保護者の方とのコミュニケーション能力をどう高めていくかというのも教員には必要な部分であると思いますので、今いただきましたことも踏まえながら、また来年の研修については何らかの具体的なものを設けていきたいと考えてございます。

○委員長 ほかによろしいですか。

(発言する者なし)

○委員長 それでは、教育振興基本計画が新しくできまして、その中でも教員の研修は大事であるということが出ていますので、今出たような意見で改善していただきたいと思います。

次にまいりたいと思います。

報告事項等3「平成25年度小学校水泳記録会の実施結果について」、ご報告をお願いします。

指導室長。

○指導室長 それでは、「平成25年度小学校水泳記録会の実施結果について」、ご報告をさせていただきます。

今年度から、昨年度まで実施をしておりました最高学年の6年生ではなく5年生の実施と変更しております。これにつきましては、今年度の10月下旬でございますけれども、小学校の連合陸上競技会が新たに入ったということでございます。これによって6年生の日程的、時間的な負担を軽減ということで、校長会との相談のもとに、今年度から5年生に実施したものでございます。今年度は9月6日金曜日に区内の15の小学校を会場といたしまして、5年生全員で参加をして実施をしたところでございます。

本日お配りいたしました資料でございますが、それぞれの4つの種目につきまして、男子、女子、それぞれの上位3名の氏名、学校名、そして記録について載せさせていただいたものでございます。なお、裏面ではございますが、こちらは平成21年度から24年度、昨年度まで6年生で実施をさせていただきました歴代の記録を載せさせていただいております。平成21年度からしておりますのは、21年度から小学校の水泳においては全て水中スタート、飛び込みはなくなりましたので、そのようなことで21年度からの記録を参考までに載せさせていただいております。

当日はどの会場でも、5年生ではありましたが、学校の代表という意識をしっかりと持って堂々と記録会に臨むことができた各学校から報告をいただいております。まだ5年生ですので、今回の記録会をもとに、水泳の学習の小学校の仕上げである来年の6年生の水泳学習に向けて子ども一人ひとりの目当てをしっかりと持たせることができるように、今後さらに学校と連携を図っていきたいと思っております。

昨年度もお話ししましたが、平成20年度までは飛び込みスタートでございました。平成20年度には、当時、堀切小学校の6年生でした渡部香生子さんがこの記録会に参加をしておまして、25メートル自由形と50メートル自由形に出ていました。6年生ではありましたが、参考までに25メートル自由形は13.9秒、50メートル自由形は30秒ちょうどということでございました。50メートル自由形の30秒ちょうどというのは、この水泳記録会の記録の中でも歴

代1位という記録になっております。

これからまたオリンピックに向けていろいろな子どもが活躍していくと思いますけれども、葛飾区の子どもたちがいろいろな記録会を通して自分自身の自信を深めていくことができるように、私たちもこれからこういう記録会についてきちっと推進を図ってまいりたいと考えております。

私からは以上でございます。

○委員長 ありがとうございます。

ご質問等ございますか。

竹高委員。

○竹高委員 5年生の水泳記録会の実施、本当にご苦労さまでございました。小学校49校の校長先生方、体育を指導なさっている方たち、5年生の先生方も全て含めて本当に大変だったのではないかと、水泳記録会を見に行かせていただいて思いました。泳ぎながら途中で立ってしまう子の数が5年生はこんなにも多いのだなと、1年の差をまざまざと感じるところです。ただ、陸上記録会が終わってはいませんので、どのようになるかわからないとしても、この水泳記録会の5年生はとても楽しそうで、印象的だったのは、学校同士の応援というのを、スポーツマンシップにのっとなって最後まで泳ぎ切るまで応援できている5年生をととてもすばらしいなと思って見させていただきました。一生懸命泳いでいる5年生の子たちが来年6年生にはまた力をつけて、中学生になるための体力づくりとしても、来年からは多分、5年生はもうちょっと泳げるレベルまで先生方は頑張っていて、夏休み前に持っていこうというお話をちょっと聞いたのです。それも5年生の水泳記録会が目標となって、5年生としての体力づくりの基盤がそこにできるというのも、ある意味、楽しみなことではあるのかなと感じました。

陸上記録会を6年生でやることによって5年生が水泳記録会になったことで、皆さんが一生懸命やられた成果だなと。楽しそうな子どもたちの顔が本当に印象的な記録会でした。ありがとうございました。

○委員長 面田委員。

○面田委員 そうしますと、今年の6年生は水泳の記録会はないわけですか。

○委員長 指導室長。

○指導室長 今年度の6年生につきましては、それぞれ校内で記録をしっかりとっていただいております。そして、昨年度まで6年生に記録証というのを出しておりますけれども、今回、その校内で計測した記録をもとに、6年生に対しても、学校対抗の記録会ではないのですが、その記録書については6年生にもお渡ししている状況でございます。

○面田委員 わかりました。その記録証が出ているということで安心いたしました。

○委員長 よろしいですか。

○面田委員 はい。

○委員長 それでは、次にまいります。

報告事項等4「平成25年度あいさつ運動啓発標語コンクールの審査結果について」、ご報告をお願いします。

指導室長。

○指導室長 それでは、ご報告をさせていただきます。

こちらの運動につきましては、あいさつ運動の取組の一つといたしまして、平成17年度より実施をしているものでございます。今回で9回目となるものでございます。こちらのあいさつ運動の啓発標語コンクールにつきましては、6月の校長会と7月25日号の「広報かつしか」、さらには区のホームページ等において募集をさせていただいたところでございます。その結果、応募状況にございますように、小学校低学年の部、小学校高学年の部、中学生の部ということで、全部で1万4,959点の応募があったところでございます。

この応募をもとに、それぞれ第3回まで審査を行いまして、9月20日の第3回の最終の審査会におきまして、本日お示ししておりますように入選作品を決定したところでございます。小学校低学年の部から最優秀賞1名、優秀賞2名、佳作4名、小学校高学年の部から最優秀賞1名、優秀賞2名、佳作4名、同じように中学生の部からも最優秀賞、優秀賞、佳作を選んだところでございます。

その結果、小学校低学年の部におきましては、最優秀賞といたしましては、柴又小学校2年生児童の「ありがとう なんだか こころ あったかい」という標語になりました。小学校高学年の部の最優秀賞につきましては、綾南小学校6年生児童の「さようなら あしたはもっとすてきな日」というものになりました。そして中学生の部では、最優秀賞は亀有中学校2年生生徒、「かわしあう 笑顔の言葉 ありがとう」というものが最優秀賞になっております。

こちらにつきましては、10月7日に塚本教育委員にご出席をいただきまして表彰式を行わせていただいたところでございます。その中で、それぞれの最優秀賞の児童・生徒から受賞後の感想や言葉を聞く機会がございましたが、小学校低学年の部の児童が『ありがとう』という言葉が言われると心が温かくなります。だから、きょうは私は心を込めて『ありがとうございます』と言います」というようなコメントを残しました。そのコメントを聞いた会場にいる保護者の方、それから学校の先生方も来ておりましたけれども、非常に笑顔になりまして、会場が和んで大きな拍手が沸き上がったということがございました。

今回、こういう一つのあいさつ運動の啓発標語コンクールでございますけれども、このコンクールを通して、子どもたちに優しい心、温かい心が育ってきているなということを実感した

ところでございます。

なお、こちらにつきましては、その資料3にも示させていただきました最優秀賞、さらには優秀賞をもとに、今、各学校で掲示をいたしますのぼり旗や横幕として作成して各学校に配っているところでございます。

こちら入選作品につきましては、10月28日月曜日から11月7日の木曜日まで区民ホールにて作品を掲示してまいりますとともに、「広報かつしか」10月25日号でそれぞれ受賞した学校名、お名前、作品につきまして掲載していく予定となっております。

私からは以上でございます。

○委員長 ご質問等ございますか。

面田委員。

○面田委員 今、室長からの報告の中にもありましたけれども、あいさつ運動啓発標語というのは、ただ標語をつくるだけではなくて、その行動を通して、もちろん、あいさつをする子どもを育てることなのだけれども、基本にあるのは心を育てることだと私は思っているわけです。ただ単に言葉を並べていい標語をつくるだけではなくて。そのように各学校もきつととらえて指導をして、こういう標語を子どもたちから集めて、このように応募してきてくださっていると私は思っております。国語などでも、いわゆる言葉や知識や技能を育てる以外にも、感性を育てなければいけないという大事なことがあるのです。それは、教育活動の中のいろいろなところで育てられるのだけれども、特にこういう標語を考えるときにはそういった部分でもいい教材というか題材になっているなど改めて思いました。

ここに出ている言葉を見ますと、「ありがとう」「おはよう」「さようなら」「こんにちは」「ごめんね」「また明日」。子どもたちというのは、挨拶というのをこんなふうにかくさんの語彙で捉えられるようになってきて、葛飾は育ってきているなという思いをしました。ありがたいことです。特に中学校へ行きますと、子どもたちには本当に丁寧にあいさつをされますし、心の中まで育てていくことに踏み込んでいるな、ありがたいなと思います。

一つ質問なのですがけれども、中学校の参加が減っている理由がわかれば教えていただきたいと思います。

○委員長 指導室長。

○指導室長 私たちのほうは理由というところまでは捉えていないというのが現状でございますけれども、今お話のように、校数も、小学校も含めて減っているというところがございます。今後そのあたりの理由についても調べて、方法的に変えなければいけないことがあれば、また継続していく上でしっかり工夫を加えていきたいと思っています。今後ちょっと調べたいと思います。

○面田委員 お願いします。

○委員長 杉浦委員。

○杉浦委員 まず、標語の選定委員を教えてください。今回、小学校低学年と中学生の部で「ありがとう」という文言が入っている標語が多く応募され、選定されたことに温かいものを感じ、最近街の中でも耳にすることが少ないなと感じておりましたので、子どもたちが心豊かに育っていることに大変うれしく思いました。最優秀賞に選ばれたお子様のご家庭のほのぼのとした雰囲気とご家族の心豊かな感性が滲み出ている作品でした。最優秀賞の標語をのぼり旗にするわけですが、街の中で多くの区民の目に触れて、多くの方にあいさつ運動に取り組んでほしいと思います。

○委員長 指導室長。

○指導室長 今、選定委員のお話でしたが、選定委員のメンバーでよろしいでしょうか。

○杉浦委員 はい。

○指導室長 選定委員のメンバーでございますが、まず、第3次の最終審査につきましては、今年度につきましては、学校教育担当部長を審査の会長といたしまして、小学校、中学校それぞれの校長会の会長2名に来ていただいております。それから葛飾区小学校教育研究会の国語部長の校長、さらには葛飾区中学校教育研究会の国語部長の校長という形でございます。さらには小学校PTA連合会、さらには中学校PTA連合会の代表の方もこの審査に加わっております。教育委員会の事務局からは私も審査委員として参加させていただいております。

最終審査に至るまでにつきましては、小学校、中学校の教育研究会の国語部を中心に、コンピュータ上で探しますと今まで既に出ている標語もかなりございます。同じものを公の標語にするということについてはいろいろな課題が出てまいります。その辺を踏まえながら最終審査まで持ってきたところでございます。

さらには、全家庭で、さらには学校も毎年のことと思わずにと。これは私も大事なことだと思っています。毎年、標語ができてまいりますけれども、しっかりと実施するのが学校であり、さらには、その学校での取組をしっかりと家庭に伝えるのも学校の役目だと思っておりますので、そのあたりも校長会としっかり連携をとりながら、PTAの方も代表で出ておりますので、そちらのほうの力もおかりしながら、あいさつについて、その「ありがとう」という言葉一つをとってもしっかり実践していくようにしてまいりたいと考えてございます。

○杉浦委員 ありがとうございます。

やはり、笑顔とか、「ありがとう」というのは無償の花束だと思っておりますので、最高の贈り物だと思っております。ぜひこれを、例えば町会の回覧板というところにも。必ず地域の

方たちの目が入るように、学校の広報誌とかで回ってくる場合もありますけれども、ぜひ区民の中にもそれが浸透するようにお願いしたいと思って要望しておきます。

○委員長 よろしいですか。

(「はい」の声あり)

○委員長 それでは、報告事項等は終了といたします。

ここで教育委員の皆さんより発言がありましたら、お願いしたいと思います。

よろしいですか。

面田委員。

○面田委員 けさ、私は、役所へ来る途中で保育園の前を通りました。そうしましたら、緑色の、中学生の職場体験の旗が立っておりまして、本当は寄ってきたかったのですが、会議の時間がありましたので来てしまいましたけれども、今そういう時期なのだということ、ぜひ応援をしたいという思いです。

○委員長 ほかにございますか。

杉浦委員。

○杉浦委員 今回は、秋の運動会が集中しておりました。何校か行かせていただきました。感じましたことは、小規模校は小規模なりに、種目一つにしてもとても工夫されていると思いました。例えば玉入れですが、10センチぐらいの小さなかごの中に、なかなか入れにくい玉を最初に入れたチームが勝ちというように、校長先生も話しておりましたが、いろいろな種目で工夫されているようでした。

表現の演目では、各学校ダンスやソーラン等リズム感ある演技でしたが、子ども達の楽しそうな顔、きびきびしたリズム感ある動きは、各学校ともとても良いものでした。

ある学校では、「校長先生は午前中からずっと立って見ているのよ」と、保護者の方や民生委員の方が話しておりましたが、本当に真剣に子どもたちの一挙手一投足を見守っているかのようでした。先生方もいつもと違うような感じで、子どもたちも隅から隅までしっかりときちんとした態度がとても印象的でした。

また、今回の運動会は、どこの学校も勢いを感じましたことを、報告させていただきます。

以上です。

○委員長 ほかにございませんか。

(発言する者なし)

○委員長 ないようですので、続いて、「その他」の事項に入ります。

庶務課長、一括してお願いいたします。

○庶務課長 「その他」として、本日、資料配付、出席依頼はございません。

次回の教育委員会は、10月28日月曜日、10時から行いますので、よろしくお願ひいたします。
以上でございます。

○委員長 それでは、以上をもちまして、平成25年度第10回定例会を閉会いたします。

閉会時刻 10時55分